



西早稻田中だより

新宿区立西早稻田中学校 03(3205)9674

疑う力、信じない力

校長 塚本 桂子

誰もがSNSなどで発信でき、情報があふれる現代社会において、ますます重要になるのが「疑う力」「信じない力」(批判的思考)であると感じています。私が幼いときは「最初から疑ってかかることはよくない」と教わりました。しかし今は、本質を見極めるには疑う力は必要なことだと思っています。言葉を付け加えれば「根拠をもって疑う力」ということです。私が教員として生徒に数学を教えていたときに、生徒から「なんで数学を勉強しなくてはいけないのですか？」と質問を受けることがありました(苦手教科1位の数学です。これは数学科教員の宿命なのです)。誰もが知ってのとおり、数学は自然科学の基盤を成している学問なので学ぶ意義はあるに決まっています。しかし質問に答え、生徒に納得してもらうことは容易ではありませんでした。数学では「順序立てて考える」「本当にそれでよいか考える」活動が多くあります。それがここで話をしている批判的思考を深めることにつながっています。巷に情報は氾濫し、情報を得ることは容易になり、それを切り貼りしてもっともらしいものを作ることも簡単です。それらの情報が本当に正しいのか、正確なのか、誰がどういう意図で発信したもので、それに対してどういう人たちがどういう評価をしているのかを確かめてから、どう扱うのかを判断する力が必要です。自分が直接経験したこと以外は伝聞であって、本当かどうかなんてわからないものです。有名な人の言葉であろうが、大勢の人が言っているように、正しいとは限りません。実際に間違ったものや怪しいものはたくさんあります。本当かなと疑問に思ったときには考える。疑い、自分で確かめ、それまでの学習や経験で蓄積してきたことや他の情報と照らし合わせて考え、自分なりの納得した答えを出す。これは今を生きる私たちに必要な行為だと感じています。生徒の皆さんには、多くの学びを通して思考の訓練をしてほしいと思っています。

最後になりますが、夏休みを迎えるにあたり、日頃から保護者の皆様には本校の教育活動にご理解、ご協力いただき感謝申し上げます。おかげさまで、今学期も無事に終わることができました。相変わらず暑い日が続きますが、ご自愛いただき、夏休みにはお子様との充実した時間をお過ごしいただければと存じます。2学期の始業式で、生徒の皆さんと元気な姿で会えることを楽しみにしています。

1年 女神湖移動教室

第1学年は、5月20日(月)～22日(水)に2泊3日で女神湖移動教室に行きました。初日、新宿を出発した時は強い雨が降っていましたが、車山スカイプラザに到着した時には日が差すまで天気が回復しました。あいにく、朝までの雨により足下がぬかるんでしまったため、安全を考慮してハイキングルートを変更し、山頂までリフトで移動してから車山肩まで徒歩で下りた後、バスで八島ヶ原湿原へ移動しました。八島ヶ原湿原では、クラスごとにガイドと湿原の周りをウォーキングしました。八島ヶ原湿原の成り立ちや、今後の推移予測、生えている植物についての話を、興味津々といった



表情で聞いていました。2日目は、まず田植え体験を行いました。田んぼにはられた水の冷たさや、土を踏んだときのゆるっとした感触に、驚く生徒がたくさんいました。耕福館に戻り、飯ごう炊さんでご飯を炊くグループと、カレーを作るグループに分かれて、昼食のカレー作りをしました。飯ごうでご飯を炊いて食べるというのは初めてという人が大半でしたが、炊飯器で炊くのととはまた違ったおいしさに感動していました。午後は高山ファミリー牧場に移動し、講師の先生から命を

いただいているということの講話を聞いた後に、乳しぼり体験と魚つかみ捕り体験を行いました。体験を行う生徒の表情は、楽しみながらも真剣さを感じられました。最終日は、立岩和紙の里に行き、うちわ作りをしました。職人さんに絵付けの方法を教えてもらって、夏をイメージした絵を描いたり、好きな言葉を入れたり、思い思いの絵柄を作成しました。完成したうちわは、1月に行われる作品展で掲示されますので、ぜひご覧ください。

2泊3日の中で、東京ではなかなかできない体験を長野県で行うことができました。宿泊を伴う集団生活を行ったことで、協力することの大切さを身につけたり、大切な思い出を作ったりすることができました。女神湖移

動教室は、本校の8つのカリキュラムのうち、【地域文化】(車山ハイキング)、【食育】(田植え、乳しぼり、魚つかみ)、【伝統文化】(うちわ作り)に属します。教科での授業や、今後の行事との関連性をもって指導を行っていきます。(第1学年 移動教室担当)

3年 修学旅行

5月29日(水)～31日(金)の3日間、奈良・京都への修学旅行に行ってきました。前日まで大雨が予想されていましたが、幸いにも天気にも恵まれ、活動するには丁度良い気候となりました。初日は現地ガイドさんのご案内のもと、奈良を見学しました。奈良公園・東大寺・春日大社、そして薬師寺を巡りながら、生徒の皆は道端にいる鹿の多さに奈良独自の街づくりを感じていました。また、東大寺の大仏や歴史の深い春日大社の神殿、凍れる音楽と称される薬師寺の塔を前に、生徒の皆さんが真剣に説明を見たり聞いたり、級友と感想をささやき合ったりする姿が印象的でした。夜は次の日の京都



班別行動に向けて、街歩きの講演を受けました。2日目は班ごとに京都市内を巡りました。班長は班員をまとめ、班員もお互いに協力し合い、事前に調べた情報をいかして、時間を意識して行動していました。また、景観に配慮した街づくりや、奈良とは違う時代の都があったことを感じさせる建物、仏閣の佇まいに触れ、学習した既存の知識を、目の前にした感動を交えて本物の体験として生きた学習を行うことができていました。そして、夜は漆器に絵を描く漆器加色体験を行いました。各々が夢中になって作品に取り組んでいました。作品は1月の作品展に展示する予定です。最終日はタクシーでの

班別行動でした。運転手さんが班員の希望に沿って、2日目に行っていない見学地をまわり、昼過ぎには京都駅に到着。皆、予定通りに新幹線に乗り東京駅へ。解散式を終え修学旅行の全行程が終了しました。疲れもあったと思いますが、「もっと京都を見て回りたいかった」「知識に留まらず、実際に目で見ると感動が違う」等の声が生徒から聞こえてきて、前向きに参加し、楽しみながら学習を深められた様子が伝わってきました。

修学旅行にあたり、実行委員が中心となり、1・2年の校外学習やスキー教室で培ってきたことを各々が生かすという意味で「独立独歩～コトコト京都へいこう～」というスローガンに決めました。今回の宿泊行事を通して、それぞれが集団の中で自分の役割を全うし、互いに協力をしながら前に進むことを意識できていたと思います。成果を次の西早稲田祭や日々の生活で生かしていきましょう。(第3学年 修学旅行担当)

運動会

6月8日(土)に第20回運動会が開催されました。実行委員が考えた「さらなる高みへ」のスローガンのもと、競技力だけでなく、取り組む姿勢などこれまでの西早稲田史上最も高いレベルでやろうという意気込みが表れていたように思います。第20回というメモリアルな運動会を行うにあたり、生徒たちは新たなことにも挑戦しました。まずは、生徒会種目「みんなでジャンプ」を盛り上げ、色別の団結力を高めようと、今年度は生徒会主催で昼休みの縦割り練習を行いました。3年生が試技を見せ、1・2年生にアドバイスを送る姿は立派でした。また、1年生は女子ターナーが誕生しました。率いる者の性別に関係なく切



磋琢磨する姿は、これからの西早稲田に新たな風を吹き込みました。また、伝統をしっかりと繋いでくれた面もあります。昨年度の卒業生が使用したむかでの縄を整備しておいてくれました。それを補修して今年の競技が実施されました。運動会1週間前に修学旅行があった3年生はタイトなスケジュールに苦しみましたが、大ムカデで最高学年らしい好レースを後輩たちに見せてくれました。どの競技も差が開こうとも最後まで全力で走り切る姿、そしてそれを応援する姿が溢れていました。



西早稲田の生徒の良い伝統。来年にもしっかりと繋げそうですね。

結果は、学年優勝が1年2組(黄色)、2年4組(緑)、3年4組(緑)、色別優勝が4組(緑)となりました。結果以上に達成感や爽快感などが得られたのではないのでしょうか。閉会式で実行委員が話してくれましたが、喜んでいる人と同じ分だけ、もしくはそれ以上に悔しい思いをした人がいます。そんなライバルの存在があったからこそ盛り上がった運動会です。「盛り上がった」だけで終わらせず本当の成功と思えるかは、これからの学校生活にいかせるかどうか。これからの生徒たちの団結力やリーダーシップに期待が高まります。(運動会担当)